



# 目次

はしがき

佐々木毅

序 大学の倫理と日独の大学——本書成立の経緯など

広渡清吾

(一)

## I 大学の倫理のために

1 「大学の倫理」が直面すべき三つの難題

蓮實重彦

(一六)

2 ミュンヘン大学の倫理

アンドレアス・ヘルドリヒ

(三二)

3 科学と大学

益川敏英

(四二)

## II グローバル化と大学

### 1 東京大学の「アジア志向」

古田元夫

(五四)

### 2 グローバル化と大学——インドネシアの事例から

バクティアル・アラム

(六四)

### 3 グローバル化と大学——ドイツの大学と国際的競争

フランツ・ヴァルデンヴェルガー

(八二)

## 目次

## III 大学教育——現状と改革の理念

### 1 高等教育大衆化時代における大学の理念と課題

藤田英典

(九四)

### 2 ドイツの意味における大学について——二〇〇年前のベルリンにおける

大学改革議論のアクチュアリティに寄せて

ヘンドリック・ビールス

(一一九)

### 3 人間全体を視野に入れる——フンボルトの教養概念の

現代性についての諸相

クラウス・フォルマー

(一四三)

## IV 科学の倫理——大学と社会

- |   |                 |                 |       |
|---|-----------------|-----------------|-------|
| 1 | 二焦点大学論——社会と歩む大学 | 西尾茂文            | (二六〇) |
| 2 | 科学倫理の近未来モデル     | 北川善太郎           | (二七四) |
| 3 | 科学の倫理と科学者       | アクセル・シェンツレ      | (二九四) |
| 4 | 科学の倫理と宗教学       | ミヒヤエル・フォン・ブリュック | (二〇七) |

## V 二一世紀の大学像——われわれはなにをなすべきか

- |   |                                      |                 |       |
|---|--------------------------------------|-----------------|-------|
| 1 | 小さな大学の個性を磨き、人類社会の多様性を<br>理解する教育を推進する | 池端雪浦            | (二一六) |
| 2 | 大学の危機と革新——複合的知と世界的公共性                | 広渡清吾            | (二二八) |
| 3 | 第一の学問的責務について                         | ヴィルヘルム・フォッセンクール | (二三九) |

## コメント

## 制約なき大学の擁護

- |            |       |
|------------|-------|
| ペーター・ペルトナー | (二五三) |
|------------|-------|

結びに代えて

「大学の倫理」の諸側面

山脇直司

(二六三)

あとがき

広渡清吾

執筆者一覧

